

今回は、清水山城跡散策・あかつき街道ウォーク・今市の集落散歩・旧西近江路を散策した。信長の最大の危機、元亀争乱の舞台になった高島市を中心とした歴史ロマンについて、ご参加のみなさんと楽しんだ。帰りに、高島市観光物産プラザに寄り、お土産購入など楽しんだ。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

元亀争乱の発端：元亀元年4月20日、上洛要請を無視する越前の朝倉義景を討伐するために織田信長は京都を出発。往時は、琵琶湖西岸の西近江路を北上し、坂本・田中城に泊って、あかつき街道を通過して越前をめざした。順調に朝倉方の諸城を攻略したものの、義兄弟である浅井長政の裏切りが発覚(4/28)。最悪の場合、信長は、越前の朝倉方、北近江の浅井方からの挟み撃ちにされる窮地に陥った。28日、浅井の謀反を確認した信長は、速やかに金ヶ崎城を出立、若狭街道を進み、その日の内に国吉(佐柿)城に入った。

信長は近江朽木の豪族の朽木元網の協力もあり、29日、元網の屋敷で一夜を過ごしている。朽木：三ツ石に信長の隠れ岩がある。(朽木元網は、当初信長を殺すつもりであったが、松永久秀が必死の決意で説得したためやっとのことで京都に帰還できたと「朝倉記」にはある。) (撤退途中、地元領主の朽木元網に敵意がないことを同行の家臣：松永久秀・森三左衛門(可成)が確かめるまで信長が身を潜めたとされる洞窟が隠れ岩である。)

信長の朽木越えの様子については、朽木氏の家臣であった長谷川家に伝わる「長谷川家先祖書」によると。28日、信長公は保坂より朽木越えの街道に入り、慕谷を通過されました。その時、朽木河内守元網公が警護の兵をつれて道案内をされたので、信長公は無事に下市の圓満堂について休息され、元網公より接待を受けられました。その際、臨家の長谷川惣兵衛茂元(茂政)がお茶とお菓子を献上したところ、信長公は、はいていた鹿革製のたちつけ(はかまの一種)と銀の箸一対をくださいました。当家では、今日まで家宝として持っています(意識)と記されている。

元網の先導で険しい朽木谷を無事越えた一行は、30日、京都に帰還。

◆ハイキングの様子



地蔵山へ



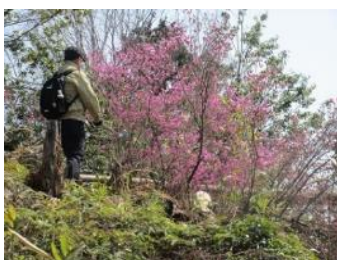
西屋敷へ



西屋敷跡



ミツバツツジを鑑賞しながら



満開のミツバツツジ



2郭・3郭の堀切から



堀切を渡り、主郭へ



武者隠し



ミツバツツジ



ミツバツツジ



今市：町場



ソメイヨシノ

あかつき街道と旧西近江路の道標

◆自然観察



イワナシ



オオイワカガミ



タムシバ



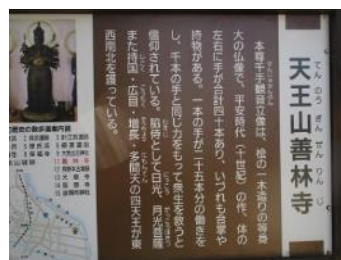
オオイワカガミ



イカリソウ



ミツバツツジ



禅林寺